

ROBOMEC 2010 in Asahikawa の 実行委員長を終えて

複合情報学専攻 教授 古川 正志

ワーという声とともに一斉の子供たちの拍手。これは、ROBOMEC 2010の市民企画で村田製作所の二輪車ロボット ムラタセイサク君[®] が2cm幅余りの平均台を渡り終えた瞬間の光景です。

ROBOMECはROBOTICS and MECHATRONICSを略した造語であり、日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門を意味します。本部門の学術講演会はロボット関連では国内最大規模の学会で、今年度は旭川市で実施されました。3年前に北海道で大会をと大会実行委員長を仰せつかった時に、開催地は長年私がお世話になった旭川市でと即断致しました。ROBOMECの学術講演会の特徴は、できるだけ多くの講演を聴講できるようにと、全講演がすべてポスター講演であることです。2日間で5セッションの発表がなされますが、1セッションで約250件の研究発表が同時に行われます。

今回のROBOMECでは、開催地へのサービスである市民向け企画、ウエルカムパーティ、ワークショップ及びチュートリアル、そして最も基幹をな

す講演会と懇親会が6月13日(日)から16日(水)の4日間で開催されました。

13日に開催された市民向け企画では、先ほどのムラタセイサク君[®] とムラタセイコちゃん[®]、レスキューロボット、初音ミクの歌うロボットを含む道内外の約20の展示によるロボット実演とパネル及び最先端ロボットの市民向け講演、子供向けロボット製作講習、小学生向け模擬ロボコンが実施されました。この企画は、旭川科学館サイパルの協力の下に実施され、3,900人の旭川市民の来場をいただきました。

翌日には、大雪アリーナ横広場でジギスカン、海産物、アスパラ等のバーベキューによるウエルカムパーティ、専門技術者向けのワークショップ及びチュートリアルが行われ、15日から16日の講演会をいよいよ迎えました。

講演会は、NHK杯等が行われるアイススケートリンク大雪アリーナで実施されました。大会は、1,180件の研究発表、大会登録者が約1,450名、関係者を含めると総勢1,600名に及ぶ盛大な講演会となり、休息のために用意した机・椅子が不足し、急遽、2階椅子観覧席を休息のために解放するほど盛会となりました。期間中は、晴天で30度近い気温



市民向け企画で実演されたロボット。右上の写真がムラタセイサク君[®] とムラタセイコちゃん[®]。



全ての講演がポスター発表で行われ、1セッション250件、計1,180件が発表された。

が続き、冷涼な気候を期待した本州からの参加者を少しがっかりさせたようですが、約700名が参加した旭川グランドホテルでの恒例のピラニア懇親会は、食べ物が尽きることなく終了し、すべての企画が無事に行われ、実行委員も胸をなで下ろした大会となりました。

本大会は、何度も旭川市において報道がなされ、また、道内の大学・企業及び旭川市の多くの方々に実行委員として参加をいただきました。ここにこの紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

※「ムラタセイサク君®」「ムラタセイコちゃん®」は、株式会社村田製作所の登録商標です。

夏季期間における工学系建物閉鎖について

夏季期間における連続休暇取得の奨励並びに省エネルギー対策のため、平成22年8月12日(木)から16日(月)の土・日を含む連続する5日間、工学系建物の閉鎖を実施します。(対象：工学研究院・工学院、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、環境ナノ・バイオ工学研究センター、トポロジー理工学教育研究センター)

なお、期間中は、原則的に年末年始の期間と同様の体制となり、対象組織が休業となります。郵便物は、郵便局留となりますので受領および発送等の取扱いは、8月17日(火)からとなり、宅急便は、原則警備員室にて受領・保管となります。事故等の対応は、緊急連絡体制に従うこととなります。皆様、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成22年度科学研究費補助金採択状況

情報科学研究科からは下表の71件が採択され、総額3億4960万円の交付が内定しました。

種目	新規	継続	計
特別推進研究	0	1	1
特定領域研究	1	2	3
新学術領域研究	1	1	2
基盤研究(S)	1	0	1
基盤研究(A)	0	6	6
基盤研究(B)	6	13	19
基盤研究(C)	8	8	16
挑戦的萌芽研究	2	4	6
若手研究(A)	0	1	1
若手研究(B)	2	14	16
計	21	50	71

新設平成22年度大学院情報科学研究科若手研究費(萌芽的研究への支援)について

本年度より、新たに若手研究者の萌芽的研究への推進を目的とした研究経費を新設しました。昨年までは、ひとつの課題につき総額250万円の「専攻横断的」な大規模プロジェクト研究に対して支援を行っていましたが、それに加えて今年度より、飛躍的な発展の期待できる萌芽的研究課題についての支援も行うことになりました。1件50万円の小規模予算ですが、今後、科学研究費補助金等への採択が期待できる研究をサポートいたします。

(研究企画室長 宮永 喜一)

北海道大学工学系・ソウル大学 ジョイントシンポジウムの開催案内

7月20日(火)から21日(水)にかけて、北海道大学工学部及び情報科学研究科において、北海道大学工学系とソウル大学によるジョイントシンポジウムを開催します。ソウル大学からは、工学部・学部長のTae Jin Kang教授をはじめとして、副学部長4名及び工学系分野の教授4名、計9名の先生方をお迎えして開催することとなりました。

21日午前の全体会議では、Kang教授並びに馬場工学研究院長のオープニングスピーチ、続いて栗原情報科学研究科長による歓迎の挨拶が行われます。午後からは、関連する研究分野によって先生方が二手に分かれ、各々のテーマで研究発表が行われます。情報科学に関するセッションは、14時30分から16時まで、情報科学研究科棟11階の大会議室において行われ、ソウル大学からは、情報通信・コンピュータビジョン・デジタルシステム設計についての発表があり、本研究科からは、関連する専攻の研究内容が紹介されます。

21日に開催される全てのセッションは公開セッションであり、どなたでも参加できますので、ご興味のある方はぜひご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

(研究企画室長 宮永 喜一)

GCOE主催国内シンポジウムの開催案内

グローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」(拠点リーダー：有村博紀)では、若手育成ならびにキャリアパス形成を目的とした「若手研究者支援のための産学協同GCOE国内シンポジウム」を、10月6日(水)から7日(木)の2日間、情報科学研究科棟1階、2階ロビーにて開催予定です。本年度は、我々の拠点形成の成果がどのように

社会に貢献するのが、若手研究者の視点から、わかりやすく提示するものにしたいと考えております。特に、博士後期課程学生およびPDの発表を、各自の研究が、何の役に立ち、どこがイノベティブなのか、今後何を推進するか、などをポスターでプレゼンする "よくわかるシーズのポスターセッション"として行います。グローバルCOEプログラムのもとで活躍する若手研究者との交流の場としてご活用いただければと考えておりますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

(グローバルCOE特任助教 伊藤 真純)

知の創出のための異分野共同セミナー報告

3月28日(日)から29日(月)にかけて、グローバルCOEプログラムの支援を受けて、定山渓ビューホテルにて標記セミナーを開催しました。

本セミナーは、学生が主体となって企画・実施したもので、若手研究者の異分野間交流を目的としました。

本セミナーでは、学生によるポスターセッションを中心に、各研究室の研究室紹介、海外を含む学内外から3件の招待講演、グループディスカッションを行い、他専攻の学生と意見交換を行う、非常に貴重な機会となりました。

グローバルCOE-RAのみならず、大学院、学部を含む学生46名、教員12名、学外からの招待講演者2名の計60名が参加し、両日を通して非常に活発な議論を交わすことができました。

本セミナーの成功は、学生の積極性や熱意はもとより、私たち学生を信頼し、ほぼ全ての企画・運営を任せてくださった先生方、グローバルCOE事務局の皆様のご尽力によるものです。ここに心からの謝意を表したいと思います。

(グローバルCOE RA、セミナー実行副委員長 高橋 亘)

竹内教授が第6回日本学術振興会賞を受賞

電子科学研究所の竹内 繁樹教授（情報エレクトロニクス専攻 協力講座 教授）が3月1日、「光子



異分野共同セミナーでのグループディスカッションの様子

を用いた量子情報通信処理の創成」の功績により、日本学術振興会から第6回日本学術振興会賞を受賞しました。

野島教授が総務大臣表彰を受賞

メディアネットワーク専攻の野島 俊雄教授が、第60回「電波の日」にあたる6月1日、情報通信の発展に尽力した功労者として、総務大臣表彰を受賞しました。

フィリピン共和国・フィリピン大学ディルマン校工学部と部局間交流協定を締結

本研究科は、4月28日(水)にフィリピン大学ディルマン校工学部と学術交流に関する協定を締結し、同時に学生交流に関する覚書を締結しました。

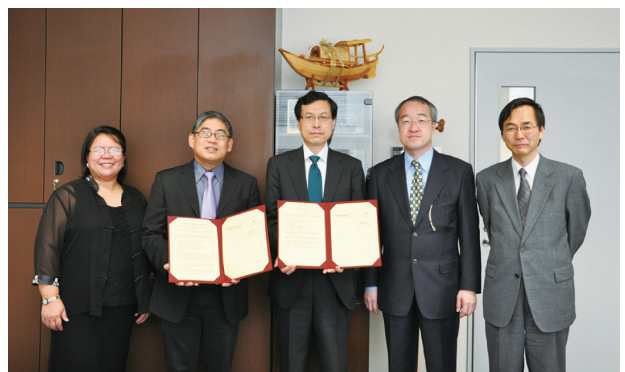
同大学は、フィリピン共和国における歴史のある著名な大学の一つであり、フィリピン共和国内最大の国立大学です。

本研究科とは、およそ5年にわたり、研究交流、国際ワークショップ共同開催などを行っており、多くの学術交流の実績を有しています。さらに、教員と大学院生を含めた交流や情報通信ネットワーク技術の分野をはじめとする共同研究も始まっています。

本協定の締結により、今後は学術交流をより一層推進し、それを基盤として、他のアジア各国も含めた国際シンポジウムなどを実施したいと考えています。さらに、学生交流に関する覚書を締結することで、教育面での交流が今後一層活発に行われることが期待されます。

本研究科では、グローバルCOEプログラムを通じて、アメリカ・ヨーロッパの海外拠点との交流を進めていますが、その活動をアジアにも広げ、全世界との交流を推進しています。本協定はその一環としても締結されています。

(学術委員会委員長 宮永 喜一)



研究科長室での調印式

【人事異動】

[教授]

(採用) 平成22年4月1日	
西野 吉則	生命人間情報科学専攻 (協) 生体機能工学講座 (4/1電子科学研究所新規採用)

[助教]

(採用) 平成22年4月1日	
日比 輝正	生命人間情報科学専攻 (協) 生体機能工学講座 (4/1電子科学研究所新規採用)

[客員教授]

(昇任) 平成22年7月1日	
渡辺 正浩	システム情報科学専攻 (連) システム展開情報学講座 (同講座 客員准教授より)

[客員准教授]

(採用) 平成22年7月1日	
船木 謙一	システム情報科学専攻 (連) システム展開情報学講座 (株式会社日立製作所 生産技術研究所)

【受賞】

2009年9月17日	長谷川 大
メディアネットワーク専攻 修士課程1年(当時)	
the 19th Intelligent System Symposium (FAN2009) & the 1st International Workshop on Aware Computing (IWAC2009), Best Presentation Awards, "Teaching a Humanoid Robot through Physical Feedback: So Easy Even a Five Year Old Could Use It"	
2010年3月25日	小松 正明
メディアネットワーク専攻 修士課程2年(当時)	
社団法人 電子情報通信学会北海道支部 平成21年度電子情報通信学会北海道支部 学生員奨励賞 「偏波ダイバーシティシステムのための高屈折率差光導波路に基づく偏波スプリッタに関する研究」	
2010年4月26日	佐藤 晴彦 ¹⁾ 、栗原 正仁 ²⁾
1)複合情報学専攻 助教、2)同専攻 教授	
International Association of Engineers (IAENG), Best Paper Award of The 2010 IAENG International Conference on Computer Science, "Design and Implementation of Multi-Context Rewriting Induction"	
2010年5月27日	坂本 雄児
メディアネットワーク専攻 准教授	
ホログラフィック・ディスプレイ研究会 鈴木・岡田賞 「CGHの研究に関して熱心に取り組む再生像の高視域化などの特性の改善の研究に秀れた成果をあげている」	

2010年5月30日	工藤 信樹 ¹⁾ 、他15名
1)生命人間情報科学専攻 准教授	
社団法人 日本超音波医学会 菊池賞(論文賞) "Low-intensity ultrasound adjuvant therapy: The enhancement of doxorubicin-induced cytotoxicity and the acoustic mechanisms involved"	
2010年5月30日	工藤 信樹 ¹⁾ 、故山本 克之 ²⁾ 、他9名
1)生命人間情報科学専攻 准教授、2)同専攻 教授	
社団法人 日本超音波医学会 菊池賞(論文賞) "High-intensity focused ultrasound induced apoptosis with caspase 3, 8, and 9/6 activation in rat hepatoma"	
2010年6月1日	湊 真一 ¹⁾ 、有村 博紀 ²⁾
1)コンピュータサイエンス専攻 准教授、 2)同専攻 教授	
社団法人 電子情報通信学会 平成21年度電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ論文賞(先見論文)「ゼロサプレス型二分決定グラフを用いたトランザクションデータベースの効率的解析手法」	

新教員紹介

1. 最終学歴および学位、2. 前職、3. 専門分野



西野 吉則 教授

生命人間情報科学専攻生体機能工学講座

- 平成8年大阪大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程修了、博士(理学)
- 理化学研究所専任研究員
- コヒーレントX線光学



日比 輝正 助教

生命人間情報科学専攻生体機能工学講座

- 平成21年名古屋国立大学大学院薬学研究科医療機能薬学専攻博士後期課程修了、博士(薬学)
- 北海道大学電子科学研究所 博士研究員
- 分子細胞生物学、生物物理学

記事の詳細及びこちらで紹介されていない記事については、情報科学研究科ホームページ、工学部広報ホームページをご参照ください。

○情報科学研究科ホームページ
<http://www.ist.hokudai.ac.jp/news/>

○大学院工学院・大学院工学研究院・大学院情報科学研究科・工学部 広報ホームページ
<http://www.eng.hokudai.ac.jp/news/publication/news/>

IST NEWS No.22 平成22年7月23日発行

発行：北海道大学大学院情報科学研究科 広報・情報室
(編集担当：山本雅人・浅井哲也・佐藤健二・小山内詔子)



情報科学研究科ホームページ

<http://www.ist.hokudai.ac.jp/>

